大学
大学短期大学部

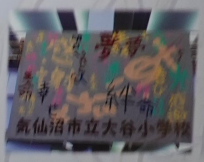
43

鶴見大学図書館

# 昔の本にさわってみよう

小学生への古典籍授業の紹介

2011年3月11日 東日本大震災が起こりました。「昔の本にさわってみよう」という企画は、本学のボランティア団体"まなびーば"による気仙沼市立大谷小学校でのボランティア活動をきっかけに始まりました。
「輝望プロジェクト」に則して、大谷小学校6年生の修学旅行プログラムの中で、鶴見大学に招待し、歯医者体験や学食体験、図書館にて古典籍を見る、という企画を行いました。
これを踏まえて、もう少しレベルアップした小学生への古典籍授業の企画を2014-2015年度の神奈川県政策提案に申請したのち採択され、実施の運びとなりました。現在は政策提案ではありませんが、引き続き近隣の小学校への古典籍授業を行っています。
この授業の目的は、子どもの頃から書物に親しみ、書物や読書、関連する歴史、日本や世界の伝統や文化、文化財等を大事にする気持ちを育んでもらうきっかけ作りとなっています。子どもたちが実際に古典籍などを扱ったり、間近で見たりする機会を設ける一方で、資料保存の点でも遺漏のないプログラム作りを目標としました。




現在の授業内容は…
①本の歴史、成り立ちを学ぶ
～本はどうやってできたのだろう?～
②実際に古い本を見る、そして触ってみる
～写本って?版本って?～
③自分の手で和本を作ってみる

2012年6月6日
気仙沼市立大谷小学校

2013.8 大谷小学校
2014.6 戸部小学校
2015.2 矢向小学校
2015.8 鶴見図書館
2015.10 平戸小学校
2015.11 森の台小学校
2015.11 戸部小学校
2015.12 神奈川県立図書館
2016.2 一本松小学校
2016.11 森の台小学校
2017.11 森の台小学校
2018.10 鶴が丘小学校
2019年11月19日 鶴が丘小学校

## 1 本の歴史、成り立ちを学ぶ ～本はどうやってできたのだろう?～

大学の書誌学担当の教員が作成したテキストをもとに、15～20分のレクチャーを行う。
学校司書の協力が得られる場合は1-7までを前日までに事前学習し、8-9のみ大学の教員が行う。スライドを作成して、スクリーンに投影させながらレクチャーする。下の枠内は1の趣旨説明の部分を小学生用に優しい言葉に置き換えて解説した抜粋。

1 趣旨説明
2 現代の本と昔の本との違い
3 文字の誕生・使用
4 紙発明以前の記録媒体
5 紙の発明
6 紙・文字・書物等の日本への伝来
7 写本と版本
8 和本の形態・内容上の注目点
9 古典籍の重要性
10 取り扱い上の注意点

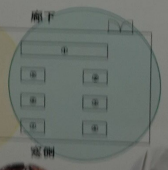
タイトル:「今日は何をするのでしょう」

・これから何百年前、モノによっては何千年も前の古い本を、皆さんにすぐ近くで見てもらいます。
・ガラスケース越しとかではなくて、本当に間近で見てもらいます。
・また見るだけではなく、実際にさわってページをめくったり、観察したりすることもできる本もたくさんあります。
・ただその前に画面を見ながら、昔の本について簡単に説明したいと思います。
・それに続けて昔の本を実際に見たりさわったりしてみましょう。

## 2 実際に古い本を見る、そしてさわってみる ～写本って?版本って?～

教室の中にさわってみる本の場所と見る本の場所に分け、それぞれの机に資料を説明する担当者を配置する。そこへ小学生たちが班ごとに①～⑧の机を回って見る・触るを体験する。

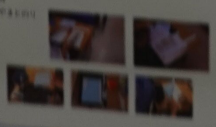
見る本の場所
⑧
パピルス・クレイタブレット
見返絵巻
インキュナブラ
(西洋初期活版本)
平安紙写経
奈良絵本
横浜近辺の古地図
解体和書
モデナトリア




さわってみる本の場所
①巻子本
②写本
③近世版本
④絵入り本
⑤一枚物・書物
⑥近代版本・活版本
⑦近代新聞雑誌・明版鉄道路線図、その他

## 3 自分の手で和本を作ってみる ～粘葉装をつくってみよう～

材料
①テキスト(1のレクチャーのスライドで作成)
②表紙・裏表紙
③糸
④針
⑤ボンド
⑥やまとのり



作り方(小学校向け)
①1枚(まいず)で本体に折る。折り目をしっかりとつける。
②裏表をそろえてかさねる。
ズレ・ゆがみがないか、しっかり確認(チェックする)
③本体のロ・小口
のりを糸をのせ折り目をつける。
折り目をつけ切れないところの間(はば)に、のりを糸を。
次の糸の折り目をその上に重ねて糸(はば)を。
その糸も同じように、のりを糸ってはまねていく。
全部ついたらもう一度しっかりとおさえる。
糸書い糸にのりを糸り、糸(ボ)をそろえるように糸を。
④表紙をつける
表紙の裏面にのりを糸り、表紙をそろ表紙に糸を。

～まとめ～
開催してから現在に至るまで、実施先の小学校からの要望や、実施後の感想なども参考にしながら、校正や内容についての試行錯誤を積み重ねています。時間配分や、子ども達がいっきり関心を持つためのきっかけの考案など、残されている課題も多いですし、また、古典籍の実物に接するという、稀な体験をしたことで、小学生それぞれが、何かしらを感じ取り、それが将来的にでも、書物文化、ひいては人文学全般への関心に結び付けば幸いです。